

いふといへり、文永三丙寅年八月の棟札に、奉再造立天津社本座大明神、大願主三善清連云々とあり、次に寶徳、次に文龜、次に天文、次に永祿、次に天正、次に寛永の棟札あり、又此社を三宮と云ひし事、慶長二年の坪付にあり」とあり、明治四年郷社に列す、社殿は、本殿、神樂殿、拜殿、寶庫等を具備し、境内坪數三百五十七坪、官有地第一種あり、外に上地林三反五畝七十八歩を明治三十八、甲百九十九號を以て境内に編入せられたり。

境内神社 白山神社(合殿十二) 東照宮

例 祭 日 十月十九日

神饌幣帛料供進 明治四十一年九月二十七日
指定年月日 告示第二百四十號

會計法適用 明治四十一年九月十五日
指定年月日 縣令第五十五號

氏子戸數 二百四戸
崇敬者員數

○島根縣隱岐國海士郡海士村大字宇受賀

郷社

宇受賀命神社

祭神 宇受賀命

創立年代詳かならず、延喜式神名帳に「宇受加命神社名神大」と見えたる神社なり、神祇志料に、神名帳考證、隱州視聽合記を引いて「宇受加命神社、今宇津賀村に在り、宇津賀明神といふ」と見ゆ、地名辭書に「國內帳を引いて「從一位宇須賀大明神と云ふ」といへり、續日本後紀に「仁明天皇承和九年九月乙巳、宇受加命神を、官

社に預らしむ」又延喜式に「醍醐天皇延喜の制、名神大社に列る」と見えたり、嘉吉年中火災のため、宮殿舊記悉く焼失せるを以て、由緒詳かならず、社殿は、本殿、拜殿、參籠所、境内坪數四百七十坪(官有地第一種)あり

例 祭 日 七月十一日

會計法適用
指定年月日

神饌幣帛料供進 明治四十年九月二十七日
指定年月日 告示第二百四十號
氏子戸數 五十八戸
崇敬者員數

○島根縣隱岐國知夫郡浦郷村宇由良浦

郷社

由良比女神社

祭神 由良比女命

創立年代詳かならず、延喜式に「由良姫神社、名神大元名和多須神」と見ゆ、續後紀に「承和九年九月乙巳、隱岐國知夫郡由良比賣命神、海部郡宇受加命神、隱地郡水若酢命並預官社」と和名抄に「知夫郡由良」などに見ゆ、神社叢書に「式三三、臨時名神祭二百八十五座」中、隱岐國由良比女神社一座、袖中抄に「隱岐國にて、知夫利崎といふに、わたすの宮といふ神はおはすなり、舟いだすとては、其神に奉幣してわたすを祈るとぞ」といひ、土佐日記に、「舟を出して漕來る道に、手向する所あり、柁取してぬさ奉らするに云々ある、わらはのよめる、わたつ海のちぶりの神に手向する、ぬさのおひかせやますふかなん」とあるなど、本社所在地名及び本社祭神